

【町長】

通告順	1	質問 議員	畑地議員
質問 項目	沼田町における「みどりの食料システム戦略」		
質問 内容	<p>令和3年農水省は農林水産業の生産力向上と持続性の両立を軸として「みどりの食料システム戦略」を発表し、2050年までに目指す姿をまとめ、それぞれの課題解決に向けた取り組みの大枠を示している。</p> <p>本町における水稻収入の減少・水田利活用の見直しに伴う交付金減額を想定すると、将来ビジョンとして国が示した農業の方向性に対応し、様々な交付金の活用を図ることは所得確保において重要である。</p> <p>有機・減農薬農業の振興で付加価値を高め、ゼロカーボンシティ宣言をしている沼田町が、更に環境問題解決に向けた農業振興をPRすることにも繋がる。</p> <p>モデル的先進地区を創出する予算も提示されていることから、早急に国が示したみどりの食料システム戦略へ対応していくべきと考える。</p> <p>町長</p> <p>① 本町における有機・減農薬栽培の現状、環境保全型農業直接支援対策事業の交付状況は？（金額・面積・作物）</p> <p>② 沼田町における「みどりの食料システム戦略」への対応として、地域農業ビジョンの新たな策定が必要ではないか？</p> <p>③ 化学農薬・化学肥料の使用量の低減、有機農業の取組面積の拡大に対する支援策を検討してはどうか</p>		

45 みどりの食料システム戦略推進総合対策

資料1：農水省HPより参照

【令和4年度予算概算要求額 3,000（－）百万円】

＜対策のポイント＞

みどりの食料システム戦略に基づき、各地域の状況に応じて、資材・エネルギーの調達から、農林水産物の生産・流通・消費に至るまでの環境負荷軽減と持続的発展に向けた地域ぐるみのモデル的先進地区を創出するとともに、取組の「見える化」など関係者の行動変容と相互連携を促す環境づくりを支援します。

＜政策目標＞

みどりの食料システム戦略に掲げた14のKPI（重要業績評価指標）の達成 [令和32年度まで]

＜事業の内容＞

1. みどりの食料システム戦略推進交付金 2,416（－）百万円

地域の特色ある農林水産業や資源を生かした持続的な食料システムの構築を支援し、モデル的先進地区を創出します。

- ① 地方自治体、地域の生産者、事業者、大学・研究機関やシンクタンク等が連携して行うビジョン・計画策定に向けた調査・検討、有機農業指導員の育成・確保等を支援します。
- ② 地方自治体のビジョン・計画に基づき、スマート農業の産地展開、有機農業の団地化や学校給食等での利用、栽培暦の改善等によるグリーン栽培体系への転換、地域循環型のエネルギーシステムや、環境負荷軽減と収益性の向上を両立した施設園芸産地の育成等のモデル的取組について、物流の効率化や販路拡大等の取組と一体的に支援します。

2. 関係者の行動変容と相互連携を促す環境づくり 585（－）百万円

フードサプライチェーンにおける関係者の行動変容と相互連携を促す環境整備を支援します。

- ① 環境負荷軽減の取組の「見える化」や生産者と消費者をつなぐ仕組みの検討
- ② 有機農産物の需要喚起に向けた生産者と実需者とのマッチングや情報提供
- ③ グリーンな栽培体系への転換に向けた技術の確立や生分解性マルチの全国展開の加速化、普及啓発のためのイベント開催
- ④ 農山漁村での再生可能エネルギーの導入に向けた現場相談体制の整備 等

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



【お問い合わせ先】 大臣官房環境バイオマス政策課 (03-6738-6479)

化学肥料30%低減

**化学肥料の使用量低減に向けた
技術革新**



2020年

2030年

2040年

2050年

有機農業の取組面積拡大 に向けた技術革新

耕地面積に占める
有機農業の取組面積の割合
25% (100万ha)



- 取組**
- 地力維持作物を組み入れた輪作体系の構築
 - 水田の水管理による雑草の抑制
 - 土着天敵や光を活用した害虫防除技術
 - 緑肥等の有機物施用による土づくり

- 取組**
- AI等を活用した土壤病害発病ポテンシャルの診断技術
 - 地力維持作物を組み入れた輪作体系の構築
 - 水田の水管理による雑草の抑制
 - 土着天敵や光を活用した害虫防除技術
 - 緑肥等の有機物施用による土づくり

- 取組**
- 除草の自動化を可能とする畦畔・ほ場周縁の基盤整備
 - AI等を活用した土壤病害発病ポテンシャルの診断技術
 - 地力維持作物を組み入れた輪作体系の構築
 - 水田の水管理による雑草の抑制
 - 土着天敵や光を活用した害虫防除技術
 - 緑肥等の有機物施用による土づくり

- 取組**
- 主要病害に対する抵抗性を有した品種の育成
 - 先端的な物理的手法や生物学的手法を駆使した害虫防除技術
 - 除草の自動化を可能とする畦畔・ほ場周縁の基盤整備
 - AI等を活用した土壤病害発病ポテンシャルの診断技術
 - 地力維持作物を組み入れた輪作体系の構築
 - 水田の水管理による雑草の抑制
 - 土着天敵や光を活用した害虫防除技術
 - 緑肥等の有機物施用による土づくり

- 土壤微生物機能の完全解明とフル活用による減農薬・肥料栽培の拡大
- 幅広い種類の害虫に対応できる有効な生物農薬供給チェーンの拡大

2020年

2030年

2040年

2050年

【町長・教育長】

通告順	2	質問 議員	高田議員
質問 項目	スキー場のリフト料金改定のねらいは		
質問 内容	<p>新年度予算には、高穂スキー場のリフトとロッジの新設工事が盛り込まれ、設置条例の改正が提案されている。教育行政執行方針にもあるように、「スキー場の利用促進」と「関係人口の獲得」は高穂スキー場に与えられた課題である。</p> <p>設置条例のリフト使用料金改定について、これらの課題を克服出来るものになっているのか質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 令和2年度のリフト使用料は、決算ベースで2,485,500円だったが、券種別の販売額はそれぞれいくらか。 2, 令和4年度のリフト使用料は、予算ベースで4,000,000円となっている（令和3年度比150万円増）券種別の販売額はそれぞれいくらを予定しているのか。 3, 1回券を値上げするのなら、回数券に当たる3時間券や1日券も値上げしないと現行料金との辻褄が合わないのではないか。 4, 設計費等も含めると6億円ほどかかる施設です。受益者という表現が適切かどうかは不明だが、地元でシーズン券や1ヶ月券を購入している利用者には新たな負担を求めないとの考え方なのか。 5, ビジターの人が利用しやすい料金体系が良いのではないか。1回券・回数券・1日券の料金を据え置き、シーズン券等を多少値上げする方が「関係人口の獲得」につながらないか。 <p>以上の質問は吉田教育長に。「関係人口の獲得」につながる条例改正になっているかは、条例提案者の横山町長に質問する。</p>		

スキー場リフト料金・新旧比較表

新料金(案) ←←←←← 現行料金

区分	大人	小人	大人	小人
1回券	<u>150</u>	<u>70</u>	100	50
3時間券 回数券	1,000	500	1,000	500
1日券	1,500	750	1,500	750
ナイター券	700	350	700	350
1ヶ月券	7,500	3,750	7,500	3,750
シーズン券	15,000	7,500	15,000	7,500
ナイターシーズン券	7,000	3,500		